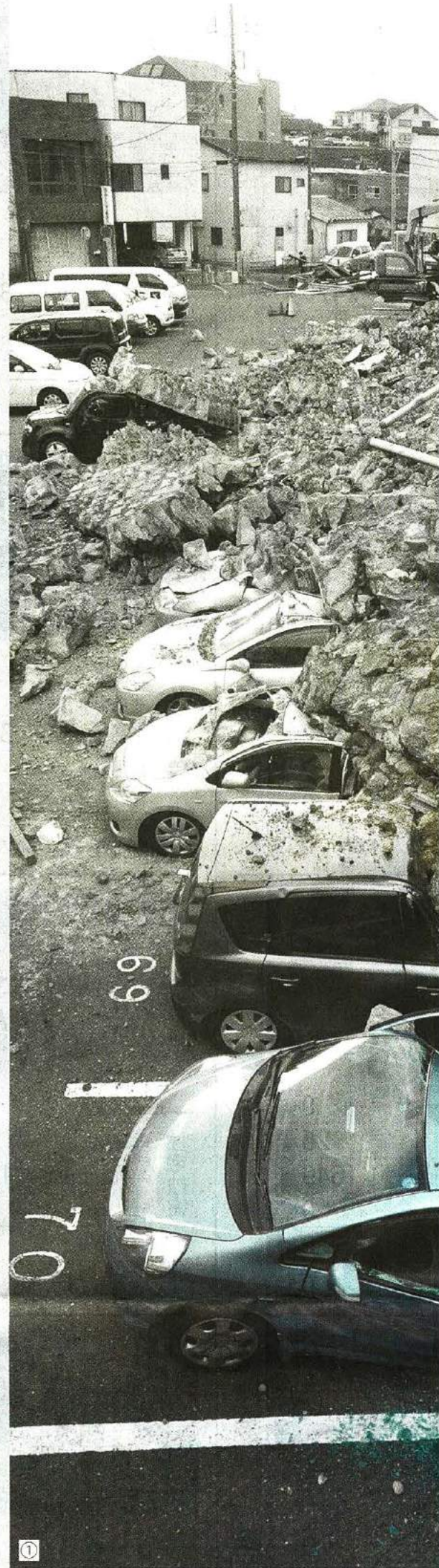


茨城新聞

東日本大震災10年

2011年3月11日午後2時46分。この瞬間、どこで何をしていたか鮮明に覚えている人は多いだろう。宮城県沖を震源とするマグニチュード(M)9.0の地震は、本県のほか、岩手、宮城、福島、茨城の東北3県を中心に、東日本の広い範囲に甚大な被害をもたらした。最大震度7の揺れと、直後に発生した津波による死者・行方不明者は2万2千人余り(本県の死者・行方不明者25人)に上った。さらに、津波後に発生した東京電力福島第1原発事故で、福島県のほか本県など周辺県に大量の放射性物質が飛散し、汚染した地域の復旧・復興を妨げた。東日本大震災の発生から10年が経過した。この間、国や各自治体は被災地の復旧・復興に全力を挙げ、新たな災害発生を想定した防災・減災の取り組みを進めてきた。未曾有の被害を振り返るとともに、復旧・復興の動きと、想定される災害への備えなどを紹介する。

甚大被害忘れられない



想像できぬ揺れ 風景一変



東日本大震災の地震と津波で県内も大きな被害を受けた
 (①水戸市宮町、②北茨城市平潟町、③⑤⑥北茨城市の大津漁港、④潮来市日の出)

私たちは「いばらき防災キャンペーン2021」に協賛しています

